

寛永諸家譜

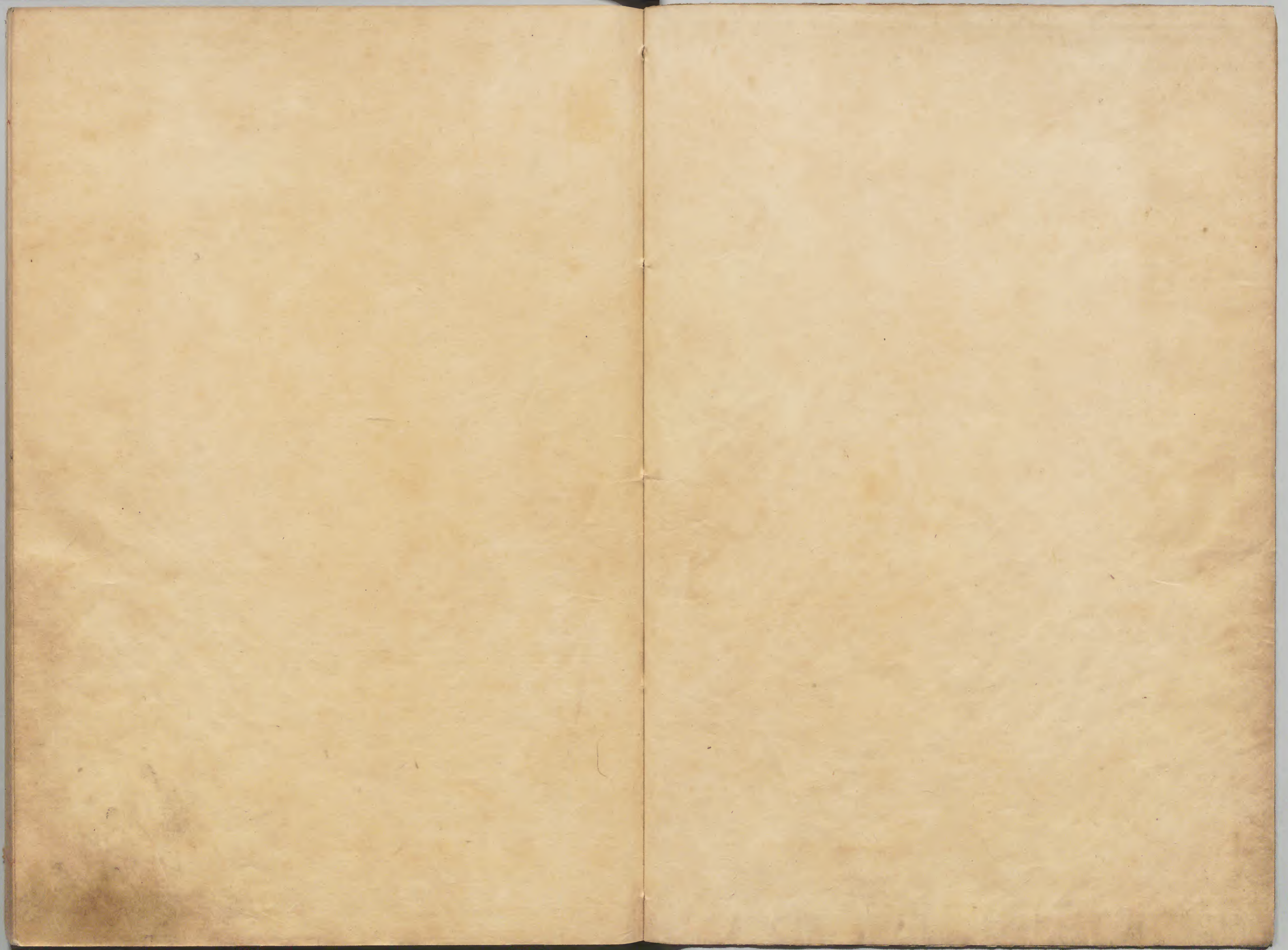
藤原氏戊二冊之内二  
道兼流

101

|      |           |       |
|------|-----------|-------|
| 内閣文庫 |           |       |
| 番號   | 和         | 20199 |
| 冊數   | 186 (101) |       |
| 函號   | 特         | 76 1  |









大久保

宇津野

墨本

小幡

田中

羽墨

寛永諸家系図傳

藤原氏

戊二 小家

道兼流

大久保

栗田白道並十代

景繼

泰繼が嫡男

宇都宮尾張守

後五郎下

下野守

淺草文庫



貞總まこと  
泰宗やすむね

系總けいすけが五男ごなん  
法石蓮はふせきれん惠けい

常陸介ひらつちのすけ

左衛門尉さえもんのかみ

時總ときすけ

三河守みかわのしゅ

左衛門尉さえもんのかみ

法石蓮はふせきれん意い

泰藤やすふじ

左近将監さきねのしやうげん

法石蓮はふせきれん常ちやう

参列さんれつ和田わだ妙玉みょうぎよ与乃よの前まへ一ひと便べん止と  
家紋いへのもん 左巴さへ 名居なゐ とうへんとす

常意ちやうい

道意みちい

宇都文うつのふみとわ  
宇津うづと称なづす



道昌

嫡男辰翁と云ふ人松平よと云ふ  
信光主と云ふ人

常若

八郎右衛門尉 童右辰若  
信光主と云ふ人

忠子

三郎右衛門尉 信右覺永

忠茂

左衛門五郎  
天文十六年よ死す  
信右源秀

忠俊

新八郎 五郎右衛門尉



宇津とありて久保と称す

清康君 廣忠郷下りしにふりつれ

享祿二年 清康君冬列沖油下り

しひく牧野傳次傳義と合戦の事

味方先陣利をうりてまよす

歎息をいきておれにをひく

忠後これとつとす 清康君をひく

叔父内膳正伝定よりすみま

こまふかりて 歎息すこれとき

吉田の城と攻めす

又四年 廣忠郷勢列よに

海より叔父伝定よりひく冬列乃

諸士みかひていし 廣忠郷と三列

小入をなすの忠後より謀略

すむるにけしひ伊賀八幡の神

しひ忠後より七枚の旗

詞と書しりて事三度あり忠後

家よりかたり詔弟よりいひける







ひろく  
廣忠郷の沖前よ作（えん）一（う）石川安藝守

とまろく（えん）と（えん）一（えん）く（えん）い（えん）く（えん）味方乃

軍勢（えん）はかり（えん）とい（えん）は（えん）も（えん）款（えん）兵（えん）と（えん）や（えん）う（えん）ち

か（えん）く（えん）廣忠郷のたまたま（えん）く（えん）こ（えん）う（えん）ち

し（えん）と（えん）の（えん）く（えん）く（えん）勝利とゆん事（えん）を

と（えん）く（えん）く（えん）汝（えん）も（えん）あ（えん）ん（えん）く（えん）あ（えん）や（えん）や（えん）也

あ（えん）ん（えん）命（えん）と（えん）あ（えん）ら（えん）ゆ（えん）り（えん）り（えん）村（えん）平（えん）七（えん）十（えん）人

と（えん）え（えん）く（えん）ひ（えん）と（えん）矢（えん）づ（えん）り（えん）と（えん）物（えん）せ（えん）取（えん）こ（えん）ま

蔭（えん）く（えん）伏（えん）と（えん）ま（えん）る（えん）と（えん）ら（えん）信（えん）者（えん）と（えん）ま（えん）ろ（えん）く

信（えん）者（えん）明（えん）大（えん）寺（えん）と（えん）あ（えん）く（えん）甲（えん）山（えん）く（えん）く（えん）く（えん）執

と（えん）ま（えん）く（えん）小（えん）伏（えん）兵（えん）の射（えん）あ（えん）ら（えん）矢（えん）よ（えん）あ（えん）ら（えん）り（えん）く

信（えん）者（えん）所（えん）わ（えん）り（えん）命（えん）と（えん）ら（えん）な（えん）ら（えん）誰（えん）か射（えん）

あ（えん）ら（えん）れ（えん）と（えん）ら（えん）事（えん）と（えん）ま（えん）ろ（えん）す

日十八年（えん）駿（えん）列（えん）の大（えん）将（えん）冬（えん）列（えん）乃（えん）告（えん）成

と（えん）ら（えん）く（えん）先（えん）覚（えん）と（えん）ら（えん）安（えん）祥（えん）の城（えん）と（えん）あ（えん）ら（えん）ひ

攻（えん）勢（えん）事（えん）ら（えん）な（えん）り（えん）と（えん）急（えん）ら（えん）り（えん）志（えん）く（えん）れ（えん）と（えん）ら（えん）に

大（えん）指（えん）現（えん）の冬（えん）列（えん）と（えん）ら（えん）り（えん）終（えん）ひ（えん）職（えん）回（えん）三（えん）良（えん）忠（えん）郎











元和五年一月ハツ...

名酒院殿

將軍家と評礼す

寛永五年十一月ハツ沙小姓組シロコウジより...

同七年四月ハツ黒書院中奥より...

同年八月朔日ハツ萩回し...

同九日ハツ九回子と約す

同年九月ハツ沙も水敷と評礼す

同八年正月ハツ沙配膳乃後とつと

同年二月ハツ川越乃沙督将より...

同九年四月ハツ日光沙社系より...

同十年三月ハツ宅屋より...

同年八月ハツ沙馬と評礼す...

同十一月ハツ沙入洛乃...

同年九月ハツ日光沙社系より...

同年十一月ハツ沙地より...

同十二年十二月ハツ沙位下より...

同十二年十二月ハツ沙位下より...



同十二年四月日光 伊社系の沙汰  
志しつゝ御つゝ

同年六月 伊しつゝ御つゝ伊二凡小  
を約と

同十五年伊半院番とけし  
同十七年駿府よとむじき伊城番  
とけし

同十九年四月日光 伊社系に侍

忠貞 ちゆうけん

加賀守が祖 子孫ありしとあり系別  
冊よみし

忠久 ちゆうきゅう

伊三郎 之良右衛門尉  
又十三年冬列三木城と攻め  
と死す

忠改 ちゆうかい

伊三郎 之良右衛門尉



実ハ新八郎忠後の子なり叔父忠久  
之本乃城了りていづれに死すれ  
少人よ 廣忠郷の命と兼て忠治と継  
永禄三年

大指現尾列當掛のを急りし沙出  
陣のよに伊豫の軍兵發する事  
いひしうと

大指現足輕とてうとこれと支しめ  
軍まりし入御し給ふ事これなり

款あるとていふる事發する事  
了忠政殿とてわけてこと少く  
引去らざればとて微疵とていふ  
同六年冬列本願寺門徒一揆とて  
こすありしとていふ忠勝の居所と  
軍まるとして忠政これに拠守  
大指現水野下燈台伝えとていふ  
名あるを和田とていふ事  
凶徒お張と



大権現 徳兵衛一 命してその位を

拒く攻く海軍忠改業内者となりて

大に出来とやうに

大権現 沖てつらと徳とくら海切主税

とよまの二徳にきく海軍志士

やうども海切後馬よ家よとらとく

のれきりぬげとれたる川新九郎を治

友六郎たうひ死と忠改志とかう

うらとひせと款と討事收多ふを

ふれとて干戈いままこや海軍一とく

味方ふも海軍志士とくうらりの多し

けしとて忠改和略乃事と謀く

大権現 一と云と一と云と海軍志士

ふれとて凶徒とくは平治す

大権現 出来と感しそ海軍食邑三

十費とてき海軍

元龜元年 江列 姉川 合戦のた

款兵すみきつらと忠改相接て志に



雌雄と交一志とありし事なり

といへども所井小款の首と成る

天正二年を列乾よといひ味

引志わねくと此款共ういふ

とといきと款忠改る海りく款を

討志とありし事

同十年後列久徳の沖城代とあり

同十八年六十三歳あり死を 法名

元

某

基十郎

永禄十一年を列堀川の合戦

といひし事ありし城と家とあり

あつて死す年十六

忠時

合志衛尉



忠重

三良古妻の尉

大権現

名徳院殿了了行久く了了く由つれ

元和九年六十三歳少して死す

法名玄如げんじゆ

忠安

三良古妻の尉

安長十九年しん月づき一いち日にち

大権現了了行久く了了く由つれ

忠守

久六郎

了了十四年十八歳少して

大権現了了行久く了了く由つれ

同十八年小田原陣おだわらととひよ奥列おくり

陣じん乃の信守のぶとと行ゆきとと命いのち

安長五年やすなが関原陣せきはら了了しん信奉のぶ







大権現と拜礼す

同十八年小田原陣了ととりのげん 伝承く

慶長五年関原陣了乃涉関原 伝承

~~~~~

大坂の陣おさか 乃涉のり 伝承

忠次ちんじ

友右衛門尉

忠勝ちんたつ

新八郎 忠勝右衛門尉

天文十一年てんぶん 信濃寺しんねう 長老ちやうらう 官くわん 命いのち 合あひ 川がわ

義ぎ 元げん 了りやう 一いつ 日にち 安祥あんしやう と 世よ の 時とき

清繩せいじゆん の 合あひ 戦いくさ 一いつ 日にち 忠勝ちんたつ 絶つた と 始はじ め

同十七年どうしちねん 冬ふゆ 列れつ 山さん 中ちゆう 乃の 城じやう を 世よ の 河がわ

味あじ の 牧まき 軍ぐん と 忠勝ちんたつ 告つげ を 為な した 相あひま

支し 款くわん 共ども 高たか 勢せい 了りやう 一いつ 日にち 固かた 了りやう

あつたのハ誰たれ ぞ や 忠勝ちんたつ 一いつ 日にち 固かた 了りやう



あふまゝ大久保一家あはれにありて歎れいとく  
大将様はくはあはれとてあはれくうらみよ  
とて二夫とてあはれその夫もに忠勝に  
あはれといへども痛もあはれすあはれあはれ  
石川新九郎一門のあはれを引ひく  
とてあはれ山のあはれあはれあはれいとあはれ  
あはれよあはれく歎軍敗少と  
弘治元年辰列蟹に合戦して忠勝  
あはれ小叔父忠貞嫡男忠世次男忠佐

河野忠勝一忠勝忠政あはれ一松浦  
八郎忠勝父子とてあはれ七人鐘とてあはれ  
あはれくあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
同二年辰列の軍あはれあはれあはれあはれ  
新八郎あはれとてあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
早川あはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ



彼と討あにひく柴田を公馳く  
忠務と突河教忠改すみきさく  
柴田を射れ柴田を公討すとのどく  
陣ふいしんとす大久保忠成と處て  
柴田と鉦  
永禄三年刈屋合戦しつる利を  
しつる忠勝をひつる忠世を  
八人にもに徳とあせ款と討敵退く  
城しつる

同六年本形と門徒並起の河忠勝が  
居所とす軍家とす  
下戸の門の親族朋友をひよ忠勝の  
子刀二十騎彼是百騎をわす今  
いり聖三年正月しつる忠勝を  
しつる日長軍功とすげ由し首級  
と得事わけしつる忠勝を  
弟忠政ありしつる忠勝を  
しつる和年



安長六年小死寸七十八歳

法名徳源

忠改

叔父忠久の家督とけく

忠名

四郎右衛門尉

生玉巻河

大指現了了けくくそそつち百五十貫れ

領地とく海

天正三年幸列二候乃破と攻不

大指現されと大久保七郎右衛門尉忠世よ

忠世よ忠名よは従弟なり

忠世よ一房と

忠世よ一房と

元和三年七月朔日下死と葬

八十二 法名日秀

正次

三助 生國回前

大久保相模守忠隣かえと



享長十一年四月二十七日死す  
四十二歳 法名日教

正重

次郎右衛門尉 生玉相摸

寛永四年二月

將軍家と拜礼す

忠豊

長六郎

永禄三年辰列石川乃合戦す

首級とえり

同年之列川屋合戦乃と記首級

と為り

同六年不形寺門徒一揆乃と記十月

より翌年正月よりいりてく数

度軍功あり

同七年冬河津沖合戦のとき

鎧とわき巻と討



同年片坂合戦了言若す

同十二年遠列天王山よとひく

款と討

元龜元年六月二十八日江列埴川

小とひく首級とえり

同三年十二月二十二日遠列三方原

合戦のとに款と討

享和二年十一月二十一日遠列長篠小

とひく言若す

同年遠列諏訪原合戦了とひて

純化の世首級とえり

同九年遠列言天神了とひく

首級とえり

同十年甲列新府合戦了言若

同十二年四月辰列岩崎よをひく

首級とえりけとに先陣柳原

武部大輔康政がとてあわけしよ

大権現の命とてあわけしよ康政了



属寸

同十四年三月八日甲子四歳少く  
死可 法名淨泰

忠  
批

長六郎

右子允

元和元年大坂冲陣のとき  
柳原重江もかゝりて五月七日  
首級と始

同二年

名徳院殿の教令了りよ

安友對馬守了り属と

寛永八年九月十三日五十八歳了り

して死に 法名日惠

忠  
尚

六右衛門尉

寛永十六年何れ

名徳院殿と洋礼と筑地と



四年 作しりしるて 沙劬え  
定奉ちやうほうりとりれ

大坂あ度乃沙科おのふくすへのと井いと主斗しゅと既い

正統せいとうが紐ひもよよ属ぞくしてて信海しんかい天王てんわう志し

口くちししくく首級くびきととええらら

沙海陣さかいじん乃の復かへ然ぜん地ちととくく久く孫そん不ふ

寛永七年九月二十一日小死す  
五十一歳

忠以ちゅうい

信之助 六右衛門尉

寛永七年七歳しりり

名瀬院殿と評礼なせいんどのとへうれい一いっ忠尚ちゅうじやうが旧儀きうぎを

きぬり

將軍家しやうぐんけ了りやう了りやう了りやう了りやう了りやう了りやう

忠正ちゅうせい

龜之助 長六郎



元和三年

將軍家より行久へつづて

寛永十年銘比とて留り

同十八年八月十二日 ありせ

しる

竹千代君乃沙傳とて布衣とて

とれ事とてゆり

忠利

合派 子右衛門尉

安永十七年より

寛永四年

將軍家と評礼す

同五年沙小性組よ入番とつと

同十年采地とたまふ

同黒書院中奥より作可

同十五より沙小納戸の役とつと



某

龜之助

寛永十八年

將軍家と拜礼と

忠益

子一節 助左衛門尉

大指現<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>久<sup>ク</sup>キ<sup>キ</sup>々々<sup>々</sup>向<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>取

永禄六年<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>後<sup>ニ</sup>一<sup>レ</sup>揆<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>とも<sup>キ</sup>

兄忠務<sup>ノ</sup>一<sup>レ</sup>志<sup>ヲ</sup>こ<sup>シ</sup>づ<sup>ク</sup>ひ<sup>ノ</sup>軍<sup>ノ</sup>忠<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>抽<sup>ク</sup>

志<sup>ノ</sup>と<sup>レ</sup>可<sup>ク</sup>し<sup>ク</sup>家

同一<sup>ノ</sup>揆<sup>乃</sup>とも<sup>キ</sup>忠<sup>益</sup>ノ<sup>レ</sup>朋<sup>友</sup>純<sup>と</sup>可<sup>ク</sup>し

款<sup>と</sup>突<sup>ク</sup>これ<sup>と</sup>珍<sup>レ</sup>れ<sup>よ</sup>り<sup>レ</sup>款<sup>は</sup>

純<sup>と</sup>海<sup>間</sup>を<sup>レ</sup>こ<sup>シ</sup>て<sup>い</sup>へ<sup>と</sup>も

あ<sup>ら</sup>す<sup>あ</sup>よ<sup>し</sup>ひ<sup>く</sup>忠<sup>益</sup>款<sup>陣</sup>よ

入<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>純<sup>を</sup>う<sup>レ</sup>づ<sup>ひ</sup>と<sup>レ</sup>款<sup>と</sup>所<sup>キ</sup>い<sup>は</sup>せ

そ<sup>ノ</sup>首<sup>と</sup>え<sup>し</sup>ら

元龜元年<sup>ニ</sup>江<sup>ノ</sup>列<sup>婦</sup>川<sup>合</sup>戦<sup>一</sup>



歎息と討捕

同三年一冬列三方原合戦に侍奉

天正三年一冬列長原合戦に柵際小

としく歎息と討と戦

同八年一冬列多尾と引去りてく

とき忠益

大指現了りてくひくくゆつれ

同九年一冬列高天祚乃城と攻戦

これにゆめ我首級と治志をかくし家

同十二年一冬列長久の合戦に水野

右衛門地小林又六喜山若重の母友討ち

為と一了りてあつて歎息とくち捕

大指現乃釣命くくくく沙使由并

沙歩折りらとを戦

元和三年七十一歳ありて死す

法石日峰



忠辰

子一節

少年より

台徳院殿より

寛文五年奥列陣の刻字部交

より出たり本曾路と此を海

上洛のとき此を

同十九年の云々大久保相模守と

トモ沙幼氣とあり

同年乃冬大坂陣あり

忠辰ひそかに彼地よと

陣寸

翌年大坂陣の河松平下總と清屋

より一属一上月六日大和口

小より一甲士と

翌日ハ赤茶磨山より

首とえ



予所居の西の山にこれとありて

作<sup>ら</sup>し<sup>る</sup>と<sup>る</sup>も<sup>と</sup>く<sup>し</sup>使<sup>は</sup>ら<sup>れ</sup>る<sup>べ</sup>し<sup>と</sup>し<sup>て</sup>

歩<sup>み</sup>行<sup>く</sup>以<sup>て</sup>し<sup>て</sup>は<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>と</sup>思<sup>は</sup>ふ<sup>事</sup>

と<sup>ゆ</sup>ふ<sup>事</sup>也

元和六年<sup>一</sup>死<sup>す</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>

法名<sup>（法名）</sup>日行

忠改

右<sup>（右）</sup>衛<sup>（衛）</sup>門<sup>（門）</sup>尉<sup>（尉）</sup>

少<sup>（少）</sup>年<sup>（年）</sup>乃<sup>（乃）</sup>と<sup>（と）</sup>き<sup>（き）</sup>よ<sup>（よ）</sup>也

名<sup>（名）</sup>德<sup>（德）</sup>院<sup>（院）</sup>殿<sup>（殿）</sup>一<sup>（一）</sup>行<sup>（行）</sup>く<sup>（く）</sup>と<sup>（と）</sup>ゆ<sup>（ゆ）</sup>れ

安<sup>（安）</sup>永<sup>（永）</sup>五<sup>（五）</sup>年<sup>（年）</sup>奥<sup>（奥）</sup>列<sup>（列）</sup>な<sup>（な）</sup>ら<sup>（ら）</sup>び<sup>（び）</sup>よ<sup>（よ）</sup>美<sup>（美）</sup>田<sup>（田）</sup>

乃<sup>（乃）</sup>れ<sup>（れ）</sup>沖<sup>（沖）</sup>陣<sup>（陣）</sup>一<sup>（一）</sup>行<sup>（行）</sup>く<sup>（く）</sup>と<sup>（と）</sup>ゆ<sup>（ゆ）</sup>れ

同<sup>（同）</sup>十<sup>（十）</sup>九<sup>（九）</sup>年<sup>（年）</sup>兄<sup>（兄）</sup>忠<sup>（忠）</sup>辰<sup>（辰）</sup>と<sup>（と）</sup>在<sup>（在）</sup>小<sup>（小）</sup>沖<sup>（沖）</sup>陣<sup>（陣）</sup>也

と<sup>（と）</sup>ゆ<sup>（ゆ）</sup>れ<sup>（れ）</sup>也

大<sup>（大）</sup>坂<sup>（坂）</sup>女<sup>（女）</sup>度<sup>（度）</sup>乃<sup>（乃）</sup>沖<sup>（沖）</sup>陣<sup>（陣）</sup>一<sup>（一）</sup>行<sup>（行）</sup>く<sup>（く）</sup>と<sup>（と）</sup>ゆ<sup>（ゆ）</sup>れ

在<sup>（在）</sup>陣<sup>（陣）</sup>一<sup>（一）</sup>五<sup>（五）</sup>月<sup>（月）</sup>七<sup>（七）</sup>日<sup>（日）</sup>乃<sup>（乃）</sup>合<sup>（合）</sup>戦<sup>（戦）</sup>一<sup>（一）</sup>茶<sup>（茶）</sup>麿<sup>（麿）</sup>山<sup>（山）</sup>

乃<sup>（乃）</sup>色<sup>（色）</sup>一<sup>（一）</sup>と<sup>（と）</sup>ゆ<sup>（ゆ）</sup>れ<sup>（れ）</sup>也

忠<sup>（忠）</sup>改<sup>（改）</sup>一<sup>（一）</sup>と<sup>（と）</sup>ゆ<sup>（ゆ）</sup>れ<sup>（れ）</sup>也



涉前せん一いとひくく涉せん勃はつ氣きれん涉せん必ひつ

れんれんとしししくく西さい系けいくく一い

身み部ぶくく涉せん懸けん免めんとくくく少せう乳に

寛永三年かんえいさんねん涉せん歩ぽ行こう頭とうとくくく

同四年どうごねん布ふ衣いとくくく送そうすく乳に事じとくくく

され

同十年どうじゅうねん涉せん使し葛かとくくく

同十五年どうじゅうごねん五ご十じゅう六ろく歳さい少せうくく死しす

法ほふ名な日にち全ぜん

忠尚ちゆうしやう

勃はつ監かん

幼ちゆう少せう乳に

台たい德とく院いん殿でん一い一い行こう人にん少せうくく西さい系けいくく

寛永十九年かんえいじゅうくねん兄あに弟ていののくく

涉せん勃はつ氣きとくくく少せう乳に

大坂おおいさかああ度ど乃の涉せん陣じんとくくく忠ちゆう辰ちん忠ちゆう政せい也や

あありりくく大おおい坂さかよよととくくくくままじじままじじ五ご月げつ

六日むいにち道みち明あきら寺てら前まへ一い一いととくくくく甲か忠ちゆう也や



くら揚聖日し海茶麿山  
しひく甲首とえふのしん底と  
かす少於沙由陣乃ら江戸  
かひく沖勁氣とゆりきせ給ふ  
寛永元年

名徳院殿乃嚴命よるしん後河  
大納言忠長卿一しんおり乃  
野と多れしゆら進物書乃以て  
わら布衣と恙す

忠隆

八岳東村 助左衛門尉

寛永十年

將軍家と洋礼す

同十一年 涉小姓組よ入番と勤

忠重

右軍門八

寛永十三年



將軍家と評禮と

同十七年三月沙書院番と評禮と

忠臣

檀十郎 荒之助とわくこの海

志存忠の射と号す 生公参河

元龜元年六月

大指現婦川一沙か陣乃内忠臣十

八歳小して修身すあ軍海ト

リわくかふと記忠臣款陣より款の

能をうむひ甲若一人とららるけ日

くつひ羅くろら

大指現れ名命一いもく忠臣ハ一

めく我場一のそみかくれこの記の

もくき奇異れ我功といふる一と

沙感乃あまあよ令乃園麻を給上

よふら差物と寸と大指十郎と

甚之助とわくくろたまふ

同三年十月中旬甲列乃軍一兵



を列をりりみみづづれれ入入味味方方見見付付乃乃産産  
より一一云云坂坂よよひひきき志志士士ととせせり  
河河大大敵敵競競来来れれああよよととひひくく敵敵執執  
戸戸一一節節大大久久保保治治右右忠忠佐佐才才幼幼きき  
るるひひはは忠忠直直四四人人敵敵ししるる河河印印由由平平八八節節  
忠忠勝勝よよせせききししるる敵敵味味ののああひひここと  
日日ろろんんとと守守大大久久保保七七島島右右忠忠世世とと亦亦  
るるををせせこころろああくくくくににおおけけしし人人に  
敵敵軍軍追追車車ああここ守守

同年同之之平平原原合合戦戦乃乃ももきき法法寺寺とと此此

と

天正天三三年年上上原原合合戦戦一一敵敵軍軍敗敗  
走走乃乃ももきき甲甲兵兵一一人人ととううららとと象象

同同八八年年駿駿列列指指船船一一ととひひくく敵敵也也  
ああひひくくかか小小事事數數別別ふふししてて勝勝をを  
ああららとといいへへももにに井井一一ととううららとと象象と  
ううらら捕捕

同同年年志志列列久久尾尾ととひひきき退退とと也也



大権現了り侍可

同九年高天神了り了るひを

まつわて軍忠とらげまは

同十年軍列新府了りなひ

小條氏忠と涉合戦乃れ款出を

うらと執

同十二年尾列涉陣乃河石川

伯耆了り一属く小牧小あ

涉使として松平若田高とたに

去久平小つら合戦すでり

御殿に忠忠純とりく森武義忠

長一が長士一人と突ふせ首と好ら

まゝ池田勝入が若黒纒乃侍一人と

うらと執

同十八年小田原陣乃と執

大権現了り了るひを

夢長也年

名瀬院殿に御よよわく涉陣



とあり〜奥列陣了〜  
須列美田陣了〜  
海つ致

同六年旧役とあり〜  
十人とあり〜

大坂あ度乃沖陣了〜

元和四年十二月布衣と

とゆらさ致

同五年駿列田中城乃定番と

所と心

同八年十二月田中了〜

死七十二歳 法名日宗

忠當

荒之助 武列江戶〜

安七十五歳了〜

名徳院殿了〜

同十七年根藉人あり世了



あはれとてしるべきものなりし珠城せんとして  
とら河彼無後二人に山打の一番  
町よとひく小屋一にまきこころれ  
多麻とてくは是とが心忠當  
小屋よとてく一人を討捕  
おれとき小笠原角虎の討あり  
しとてく走いり忠當一くりり  
海一人を討は河忠當とてく  
名徳院殿上使とて山口に守る

き海より河忠當のひとりけりたゆ  
とれ

同十九年大坂陣一に侍奉  
翌年五月七日玉  
送色一とてく款名と討  
とれ

寛永元年正月二十四日  
一とて死す 法名日寛



忠景

長三郎

元和二年十二月十五日十五歳

山一

將軍家了了了之きく海つれ

忠真

平四郎

元和九年十二月十九日十六歳

了了

將軍家了了了之海つれ

忠辰

甚之助 武列江了了了生れ

寛永元年九歳了了了

名徳院殿と洋礼と

將軍家忠當が依代子立百之れ内子石

を忠辰了了了海つれと弟

忠昌了了了了了了了



同九年 沙書院番と行はせ

同十年 沙小姓組と行はせ  
番と行はせ

同年 沙院とくりし海りり子二百  
と行はせ

忠昌

忠昌 駿列 田中よ生乳

寛永元年 七歳少して忠昌が領地  
乃月五百石と行はせ

同十一年 十五歳少して忠昌が領地  
為軍家と行はせ

同十二年 沙小姓組と列  
番と行はせ

同十二年 沙院と行はせ  
書院と行はせ

忠之

平十郎 生國同家



忠宗

子右衛門尉

康忠

新八郎

右衛門尉

永祿六年の冬

大指現冬列上和留

名加るとよ

せさせし海ふと見康忠よ涉諱の字  
と信りらそのうへ涉傍りて涉養育

せさを流ふをきとふわふれよよらとく

大指現りしとさういさうくゆゆりく

是濟小りしれ

え龜元年江列姉川合戦のとき

款去涉諱下りすみらけく康忠

大指現乃市下知とかりりく相き

い首二級とゆら

天正十二年尾列長久の戦場

とひく純化のせ首とゆらうれ







寛永二年 涉弓丸者とあつたり大坂  
涉城乃定番とにむ

同十子

將軍家の作りしむりく江戶より

同十一年 涉弓丸とあふ

元改

上野八郎

忠徳やーまひく子と寸実ハ去を人

子形あり

元和元年 大坂涉弓丸乃河野教海申書

正次が継りしむりく軍忠とにむ

まじりしむりく小坂とにむ

同六年十一月二十七日武列しむり

く死す三十一歳

元勝

西島八

寛永二年十一月廿八歳あり



將軍家と有礼す

康村

新八郎

安永五年

名徳院殿了了洋福す

同年奥列陣アウリーをかんひりしり沙入海ようりく等

れ徳寺と所と也

同十六年 釣命えんとあり海あり

大妻おんの徳とりらと家かれ

元和元年大坂陣の徳奉と勤

五月七日えん戎場えん了了とひく款てん号かい成

うらららら

寛永三年 湯弓ゆきがらと家かり布衣ふいと

恙とくす此事このこととゆかた

同九年六月了了死し年四十九歳 法名

曰い慈じ



忠重

次郎八

康任

新八郎

武列江戶

寛永九年

將軍家と相礼す

忠村

三之助

生玉同前

寛永九年

將軍家と相礼す

忠知

平六郎

生國同前

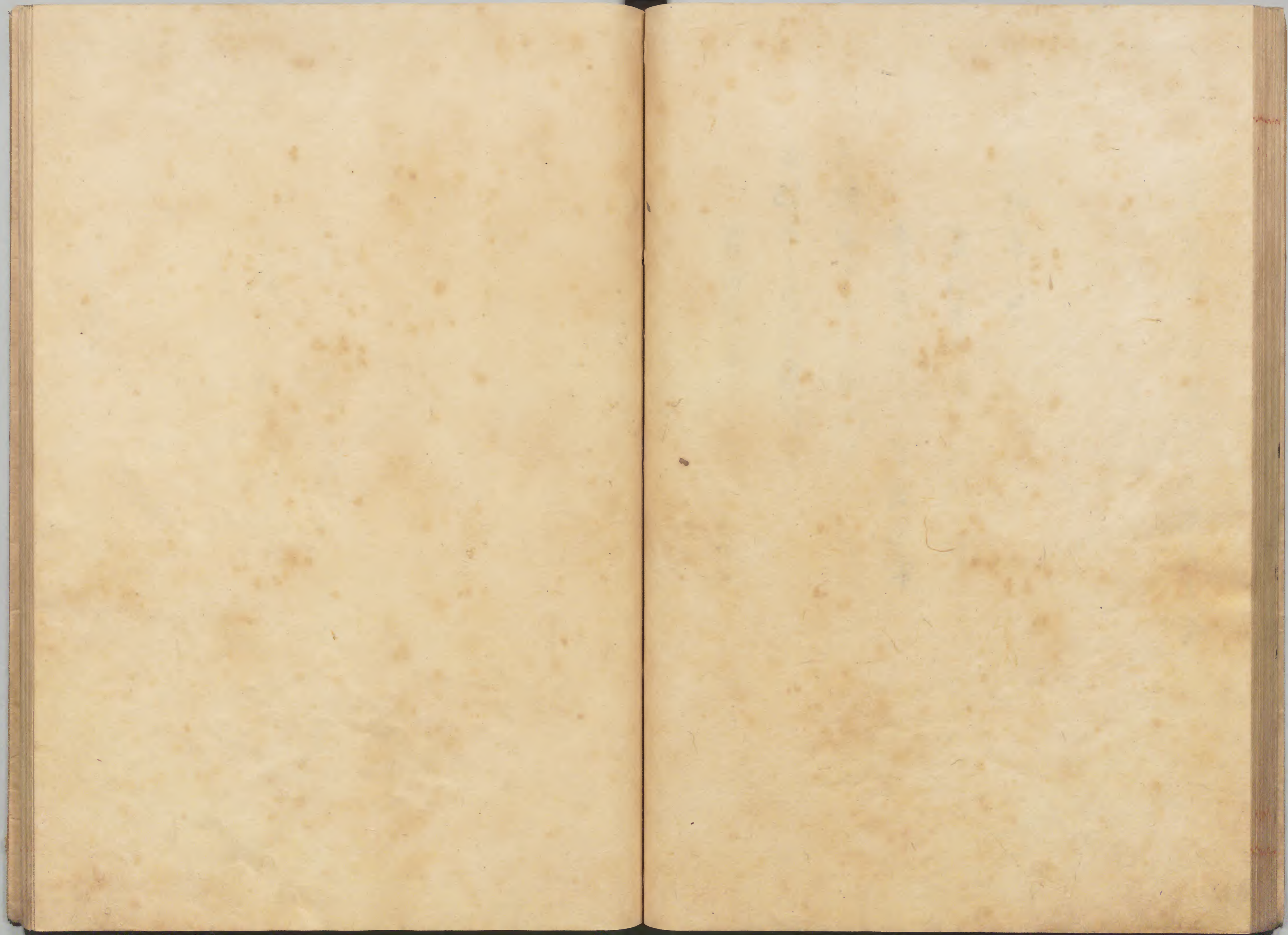
寛永十六年

將軍家と相礼す

家紋

上藤丸の内大文字







大久保おおくぼ

正次まさつぐ

七郎しちらう

七良右衛門尉しちらうゑもんゑい

生田参河なまきまさんご

先祖せんぞより伝光でんこうより了りょう

正名まさな

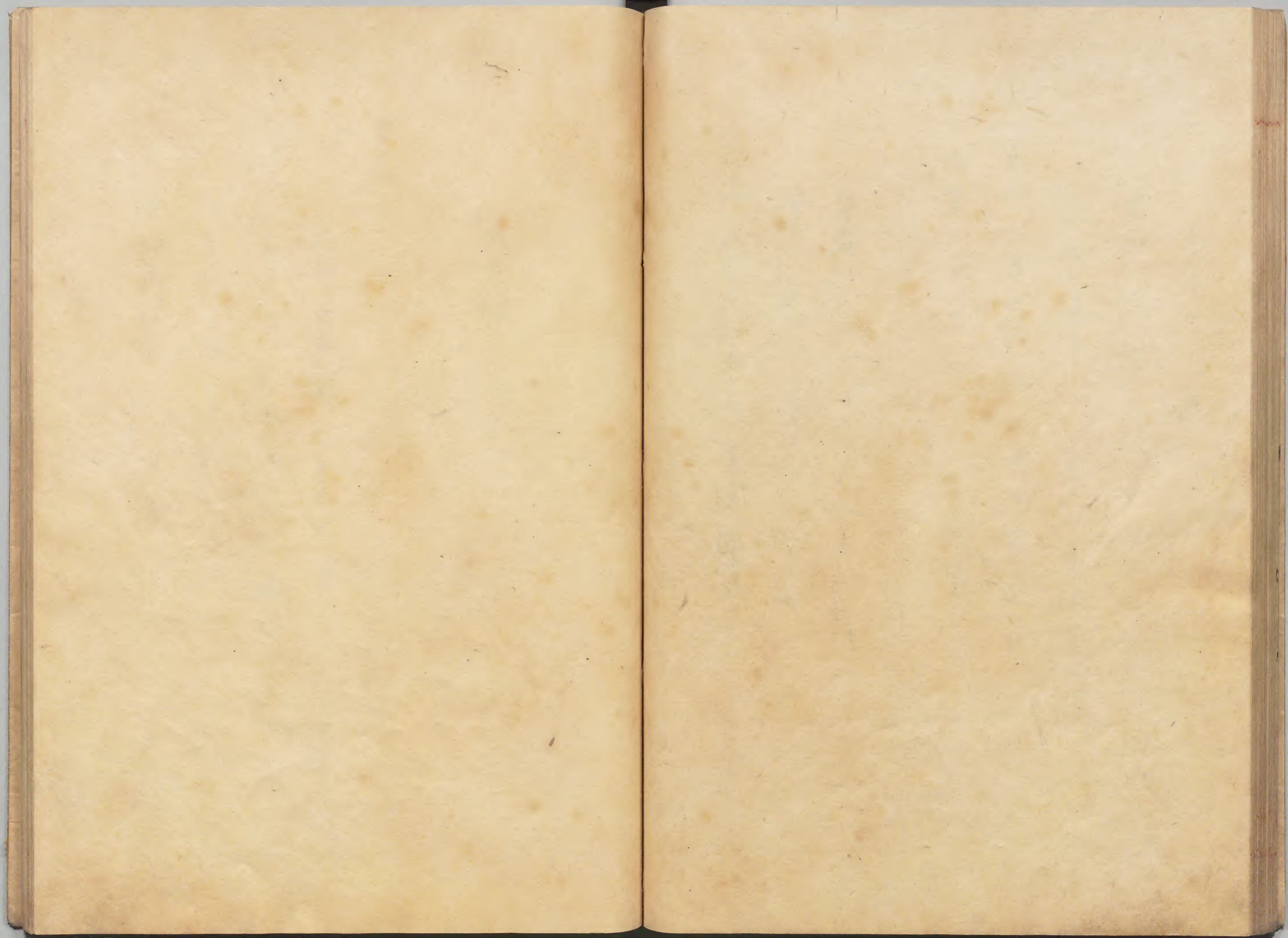
九良右衛門尉くらゑもんゑい

生田同前なまきまどうぜん















正次

長谷部尉

生玉回あ

二天ハ信玄の家人秋山志左衛門

法石汝舟

か

子なり先正が家督とつれ

大指現

台徳院殿

法石了徳

信受院と号す

正栄

友之郎

生玉相模

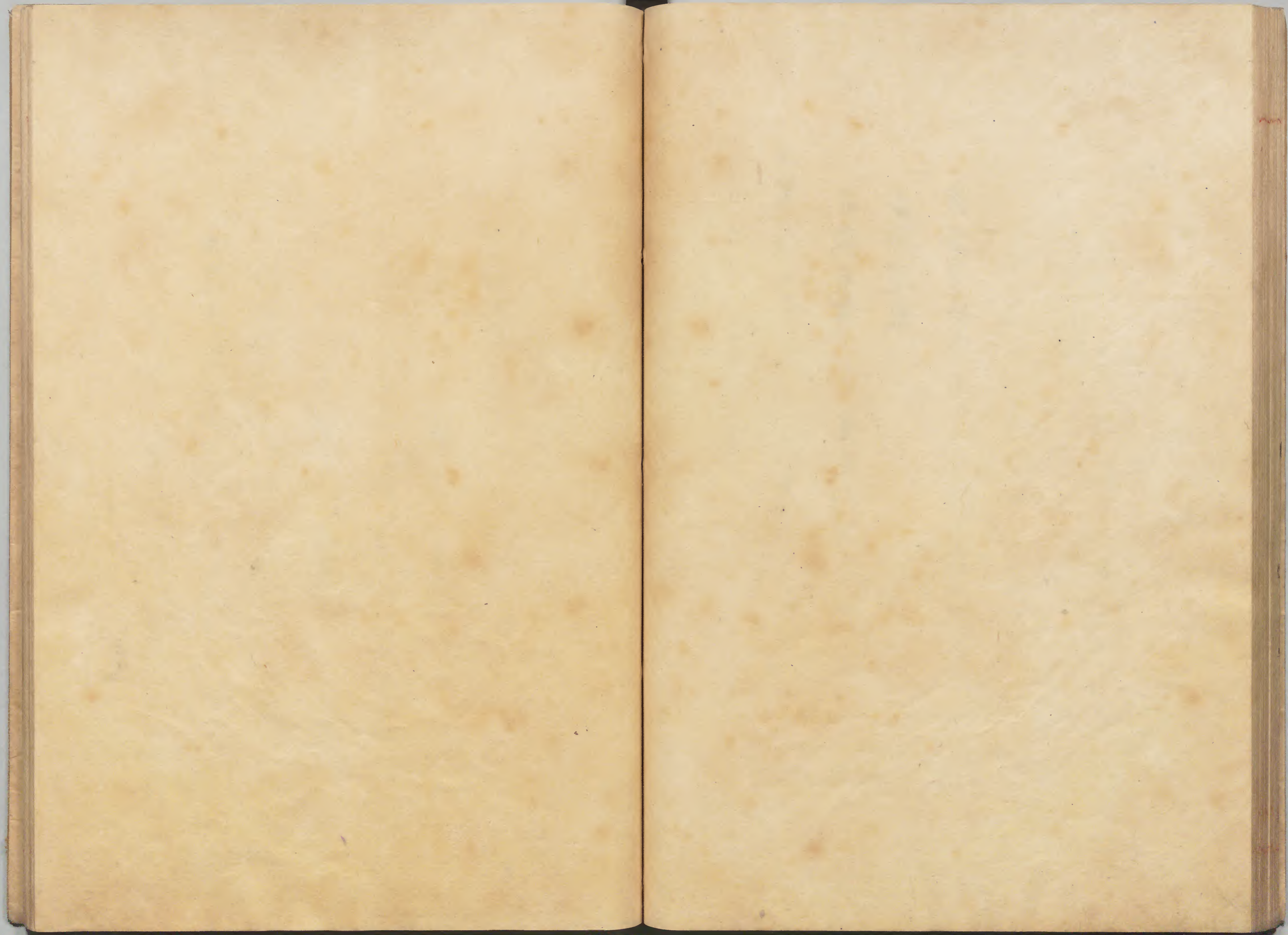
台徳院殿

將軍家

家紋

丸の内よ大の字







宇都野

色とハ宇都交と号以

行と入きく道昌うれ子辰あそ

と何と入冬列松平よいしり

流光主しつと入あれりわけが

累世浄苗家よけと入そまつら

辰あひとあわくハ辰古あつち

号すよふとら正務が先祖か



正勝

京三郎

冬河和由よ生れ

廣忠郷よりびり

東照大権現よりけりてくゆつら

冬列御所寺に侍一揆のとき甚男

正成あひとをりし和由よりありて

慶下より居す

正成十三年十二月十七日死す

歳七十九

正成

子之郎

生國回あ

廣忠郷よりびり

大権現よりけりてくゆつら

冬方原長藤等れ合戦よ生れ

安永十四年六月十九日死す歳

六十二

法名為涼



正信

北右衛門尉

生國同前

大権現

名徳院殿

將軍家一行久幸々海上系

正長

九良右衛門尉

大権現

正氏

名徳院殿

將軍家一歴仕一々海上系

信之丞

生國同前

元和七年

名徳院殿一一々海上系

寛永十一年一一々海上系

將軍家一一々海上系



家紋 いへのもん  
幕紋 まくのもん

三頭左巴 さんずうさ  
鳥居井垣 とりいゐ



正重

墨本

家傳よいく下野玉垣若乃庄  
住す宇都宮芳賀乃末流墨本  
信濃守富高が後胤なり

円通院 下野垣若乃庄より

天文二年 宇都宮那波と合我なり



正重宇都交<sup>しげ</sup>一<sup>つ</sup>属<sup>り</sup>一<sup>つ</sup>那<sup>な</sup>次<sup>つ</sup>乃<sup>の</sup>領<sup>り</sup>内<sup>に</sup>  
佐久山<sup>さくやま</sup>乃<sup>の</sup>城<sup>じやう</sup>一<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>我<sup>わが</sup>死<sup>し</sup>す<sup>す</sup>歳<sup>さい</sup>之<sup>の</sup>十<sup>じゆ</sup>  
三<sup>さん</sup> 比<sup>ひ</sup>右<sup>みぎ</sup>道<sup>みち</sup>經<sup>へ</sup>

正親

讃波守 生可回<sup>なみきり</sup>

天正十二年八月廿日小田原小條<sup>おだわら</sup>の  
宇都交<sup>うとま</sup>と攻<sup>せ</sup>れ<sup>り</sup>と<sup>と</sup>正親<sup>せいしん</sup>宇都交<sup>うとま</sup>一<sup>つ</sup>  
属<sup>り</sup>一<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>正親<sup>せいしん</sup>子<sup>こ</sup>照<sup>てる</sup>富<sup>とみ</sup>正<sup>せい</sup>富<sup>とみ</sup>わ<sup>わ</sup>ひ<sup>ひ</sup>こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>一<sup>つ</sup>

皆川<sup>みながわ</sup>一<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>小<sup>こ</sup>條<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>照<sup>てる</sup>富<sup>とみ</sup>  
正<sup>せい</sup>富<sup>とみ</sup>一<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>死<sup>し</sup>よ<sup>よ</sup>と

同十五年正親<sup>せいしん</sup>因<sup>いん</sup>東<sup>とう</sup>上<sup>じやう</sup>洛<sup>らく</sup>す<sup>す</sup>と<sup>と</sup>  
と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>秀<sup>ひで</sup>吉<sup>よしか</sup>名<sup>な</sup>筑<sup>つく</sup>紫<sup>むらさ</sup>一<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>瑞<sup>みづ</sup>陣<sup>ぢん</sup>わ<sup>わ</sup>

正親<sup>せいしん</sup>持<sup>もち</sup>列<sup>りやう</sup>兵<sup>へい</sup>庫<sup>こ</sup>一<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>秀<sup>ひで</sup>吉<sup>よしか</sup>  
一<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>秀<sup>ひで</sup>吉<sup>よしか</sup>名<sup>な</sup>塩<sup>しほ</sup>若<sup>わか</sup>庄<sup>ぢやう</sup>の<sup>の</sup>内<sup>うち</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>  
三<sup>さん</sup>千<sup>せん</sup>三<sup>さん</sup>百<sup>ひやく</sup>六<sup>む</sup>十<sup>じゆ</sup>石<sup>いし</sup>の<sup>の</sup>食<sup>じき</sup>邑<sup>い</sup>と<sup>と</sup>一<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>

同十八年<sup>おんなじふはちじゆん</sup>和<sup>わ</sup>孫<sup>そん</sup>義<sup>ぎ</sup>保<sup>ぼ</sup>と<sup>と</sup>頼<sup>ら</sup>子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>守<sup>しゆ</sup>  
同<sup>おんなじ</sup>年<sup>ねん</sup>十<sup>じゆ</sup>二<sup>に</sup>月<sup>げつ</sup>十<sup>じゆ</sup>二<sup>に</sup>日<sup>にち</sup>家<sup>け</sup>督<sup>とく</sup>と<sup>と</sup>比<sup>ひ</sup>右<sup>みぎ</sup>河<sup>が</sup>一<sup>つ</sup>



義保十五歳下り

享長七年八月九日死と七十五歳

法石梅屋

女子

塩谷日向守義通の妻義通を海中守

義次が子あり

照富

九郎

小田原守都交と合我のとき皆川小

二十歳あり討死

法石全鑑 道號鏡山

正富

法石

照富と回下よひ十九歳あり

我死と 法石念心 道号月山



義保

久太郎 良田少輔 生國同好

實は壇谷日向守義通の嫡子あり正親の  
養子となりし十五歳ありしとき秀吉より  
詢す

慶長三年大坂一を討く

東照大権現と稱ししゆつれこのと

き義保二十三歳

同四年

名徳院殿しし拜謁す

同五年上杉景勝叛逆のとき

大権現これと征伐のしめ下野の國小

山へ湧出馬のとき義保才伴若菜保真

と具ししゆ

大権現しし謁ししゆつれこのとき

かきけりも無貴ししゆり

釣命ありし皆川山城守ししゆれし

大田原の城番成しし心義保が子成



人質として江戸に献せ

乃ら佐竹秋田へ玉づくへ乃らとき定城富是  
の番成候とせ

相馬長門守沖筋氣を叫ぶる候とき

義保岩城富是より玉づくに牛越

ととじき番を候とじ玉よとつち

沖ゆりこれありてゆれの中へ牛越

を志つちして玉づく江戸

了とせ候と下野の玉の

小貫一とひく五百石の銀紙とく

とく寺内

里見安房守綱玉乃らとき内友なる物

組よけりる乃房列の番成候とせ

大坂西陣陣よ一本由佐渡ちかくみ

届一信事とつと命落城乃中とき

次那乃番を候とち落人乃首三十余

級うらとちれと献す乃ら伏見

涉島と候とせ



家と源五郎沖政易れとよき家とよ  
とよいききとよとよ

日根野織部正成地を筑紫よかり  
とよ下野のよとよ生れ城乃蕃とよ  
とようのち甲府の沙城とよ  
一年つとよ

保真

想十郎乃ら伊呂海尉とよ

清通

健助

義政

内卷助

寛永八年正月十一日十五歳

名徳院殿

將軍家より洋賜す

女子



某

万石 まんきり

家紋

石巴 いしば



墨本

秀作

高橋

生玉下野

七十歳小く死す

法名宗巴

高盛

新長清射

生國同前



とつめ及皆川山城より一信より西  
浪人となり

高作

幼左衛門尉 生不問

元和三年より

名徳院殿より一福より

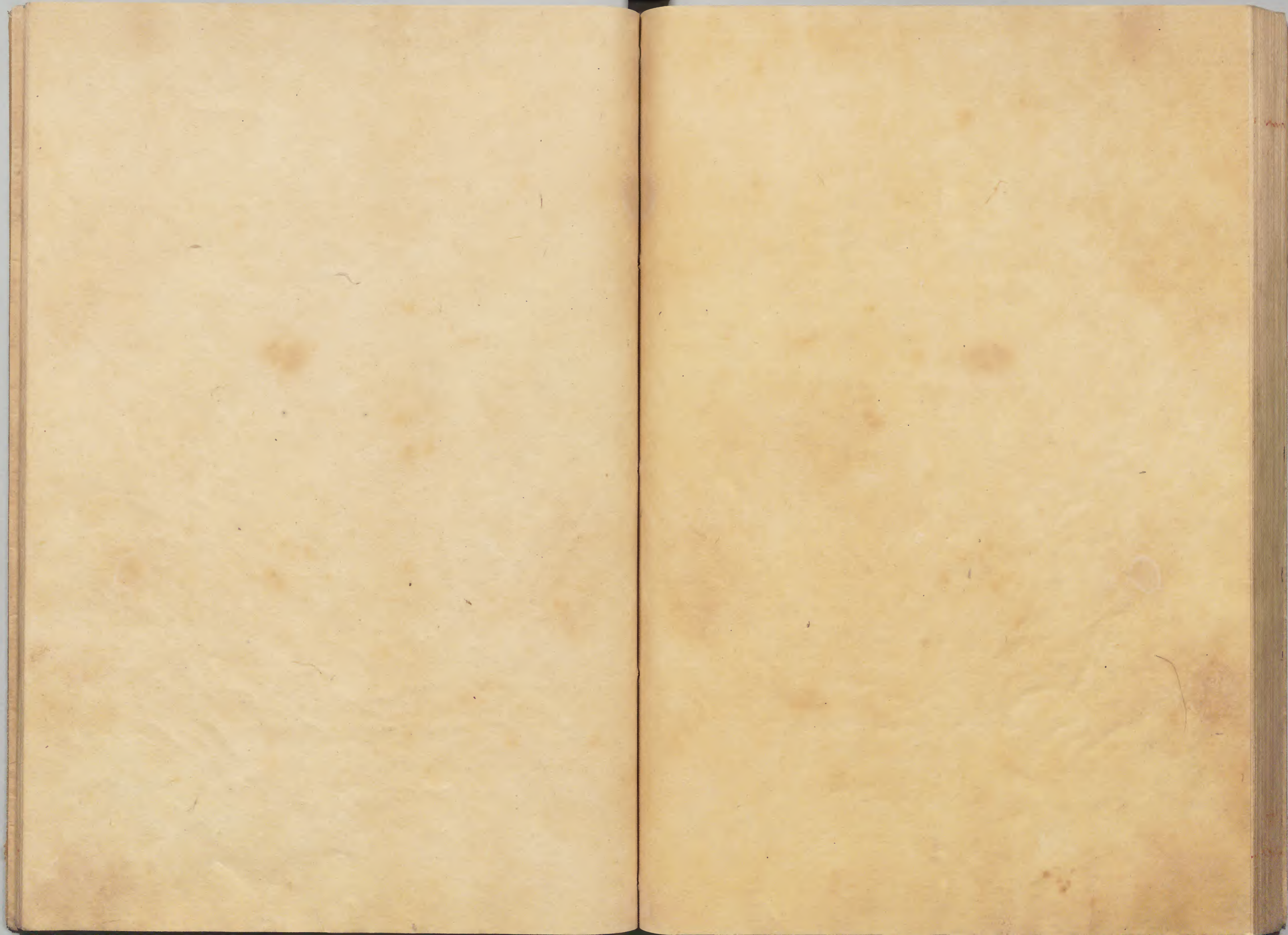
將軍家より一信より一信より

一信より

家紋

右巴







正後

太師左衛門尉

生玉相模

天正十八年

東照大権現園東沙入玉乃と記取福

〜ゆつら大津番とつと心九十奉

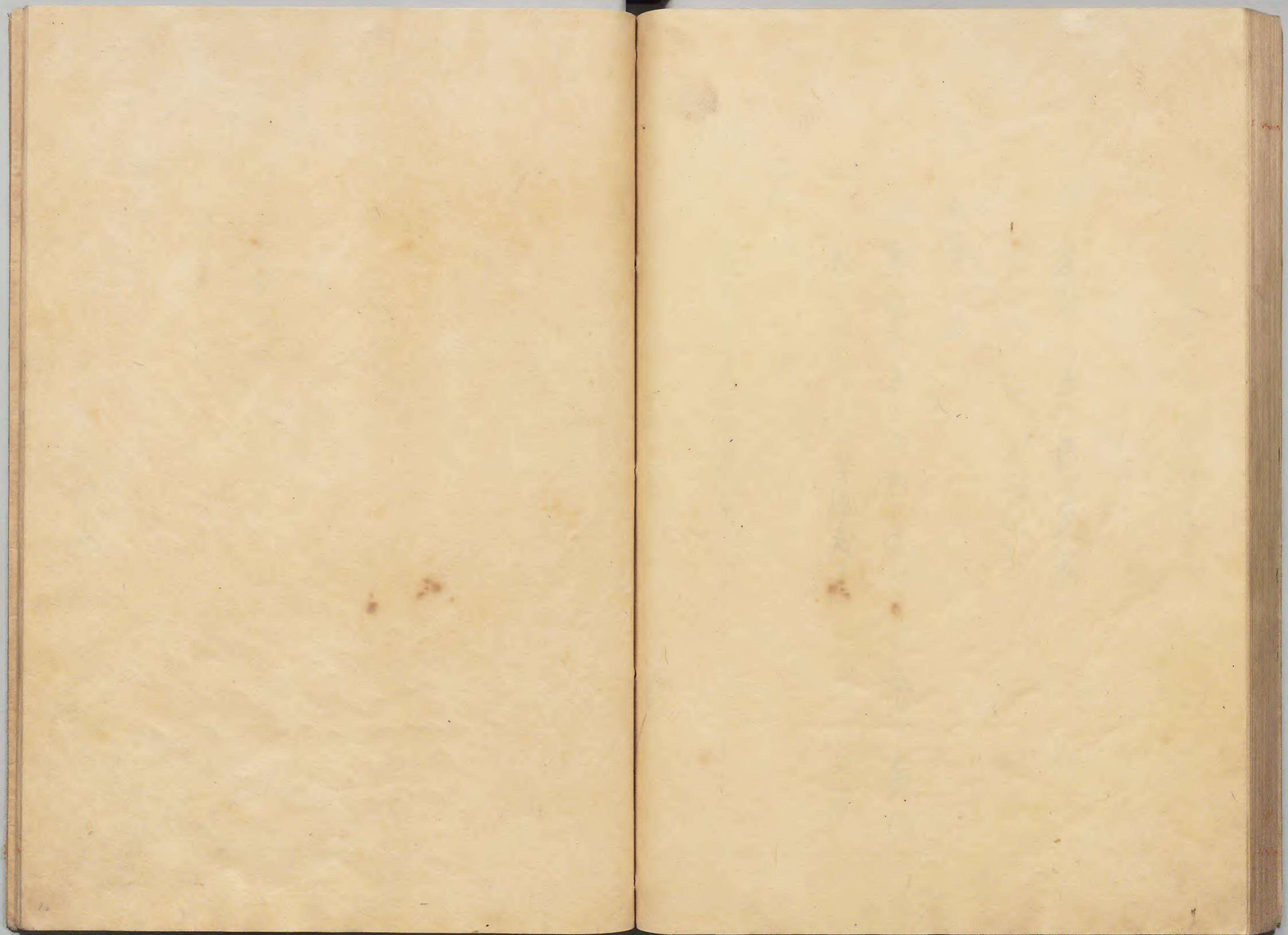
小とび武列祚庭村れ領地了

小幡











某

田中

瓶前

武田信玄

政利

新井

生國

法石











道徳十二代

● 泰藤

初巻

宇都宮右近将監

佐右衛門

新田義貞

冬列下居

家紋 丸巴 鳥居と流紋と寸



藤 繼 ふじ づき

冬列 ふゆ 了 り 一 いつ 頃 ころ

泰 物 たい ぶつ

田原左衛門尉

右監入道

法名蓮海 もん かい

玉 繼 たま づき

久太郎

長庫助 なが くら すけ

冬列 ふゆ 了 り 一 いつ 頃 ころ

國 泰 くに やす

新左衛門尉

法名蓮有 もん あり

冬列 ふゆ 了 り 一 いつ 頃 ころ

元 繼 もと づき

田原左衛門尉

初 はつ 了 り 一 いつ 頃 ころ



泰元

物是新即位 冬列名良小領す  
とどめく物是とりく称号とす

泰弘

久世清尉 冬列名良しひまね  
廣忠郷よつしゆつね 三列よをひく  
病死

泰正

久世清尉 とどめれ名良久世  
乃ら伊豫と号す 童名直千代  
とどめ川 伯耆守牧正よ属して  
東照大権現ししは久きく河川に牧正  
ゆへわく冬列とる豊信秀名乃  
旗下しつるといへも泰國  
あひまこくすくゆ







五十七

法名全陸えんけい

國豊くによと

弥五右衛門

尾張義直おわりぎのちか 忠輝ただあき 一子いっしこ

勝國かつくに

権左衛門尉

童右衛門どうゑもん 代しろ

武列ぶりゅう 江戸えど 小生こせい 乳ちち

母はは 是原しはら 越前えちぜん 女むすめ

名德院なとくゐん 殿との 一子いっしこ 一子いっしこ 一子いっしこ 一子いっしこ

寛永五年十一月十二日かんゑいごねんじゅういちがつじふににち 一子いっしこ 病死年びやくにんねん

三十四さんじゅうよん 法名豊平はふみやうへい

恭直きよみち

久松ひさまつ 尉ゑい

生國なまくに 同どう 前まへ

母はは 上かみ 小こ 女め

名德院なとくゐん 殿との

將軍家しやうぐんけ 一子いっしこ 一子いっしこ 一子いっしこ 一子いっしこ

勝宗かつむね

八木やち 丈ぢやう

生國なまくに 同どう 前まへ

母はは 上かみ 小こ 女め

元和三年げんわさんねん 一子いっしこ 一子いっしこ







家紋

三政乃左巴



